

「高校魅力化評価システム」について

1. 「高校魅力化評価システム」の活用

島根県教育委員会では、県立高校魅力化ビジョンに基づく、県立高校魅力化の取組の現状と変化を把握することを目的に、通信制を除く全ての県立高等学校（以下「県立高校」という。）に対して、「学校と地域の学習環境に関するアンケート」（以下「高校魅力化アンケート」という。）を実施しています。

「高校魅力化アンケート」は、新学習指導要領下で重視され、育成が求められる生徒の資質・能力の観点、またそのために学校側が提供、実現することが求められる「主体的、対話的で深い学び」や「社会に開かれた教育課程」等、インプットの観点を、指標化し整理したアンケート調査です。

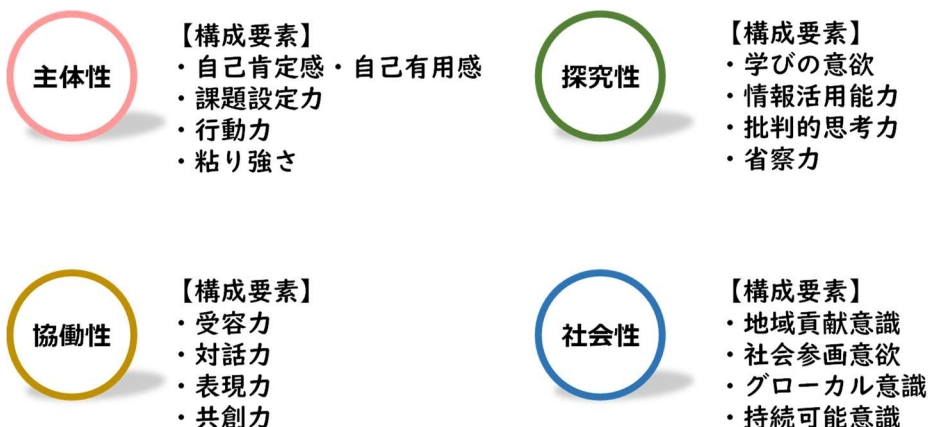
具体的には下の図表の通り、「主体性」「協働性」「探究性」「社会性」という4つの資質・能力の観点ごとに、「学習活動」「地域の学習環境」といったインプット指標、「（生徒等の）能力認識」「（生徒等の）行動実績」「ウェルビーイング」といった、アウトプットの指標を幅広く盛り込んでいます。生徒等の能力認識については、4つの資質・能力の観点の下位にさらに細かい分類を設け、アンケートの質問と対応付けることでその把握を行っています。

島根県教育委員会では、2019年から「高校魅力化評価システム」を全県立高校に導入し、「魅力ある高校づくり」についての施策効果や県立高校におけるグランドデザイン実現のための振り返りやPDCAサイクル構築に活用しています。

図表1 高校魅力化アンケートの質問の構造

生徒向け調査の構造	主体性	協働性	探究性	社会性
①学習活動	・主体性に関わる学習活動の量	・協働性に関わる学習活動の量	・探究性に関わる学習活動の量	・社会性に関わる学習活動の量
②学習環境	・主体性に関わる学習環境の質	・協働性に関わる学習環境の質	・探究性に関わる学習環境の質	・社会性に関わる学習環境の質
③能力認識	・主体性に関わる生徒の自己認識	・協働性に関わる生徒の自己認識	・探究性に関わる生徒の自己認識	・社会性に関わる生徒の自己認識
④行動実績	・主体性に関わる生徒のここ1カ月の行動	・協働性に関わる生徒のここ1カ月の行動	・探究性に関わる生徒のここ1カ月の行動	・社会性に関わる生徒のここ1カ月の行動
⑤ウェルビーイング	私の現在の幸せ “いま、学ぶための幸せ”	私たちの現在の幸せ “ともに学ぶ幸せ”	私の未来の幸せ “目標に向かい 学び続ける幸せ”	私たちの未来の幸せ “学びを未来に繋ぐ幸せ”

図表2 生徒等の能力認識に係る質問の構成要素

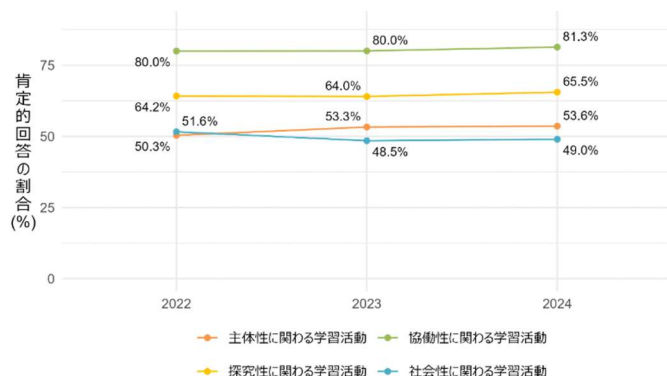


2. 3年間の結果推移

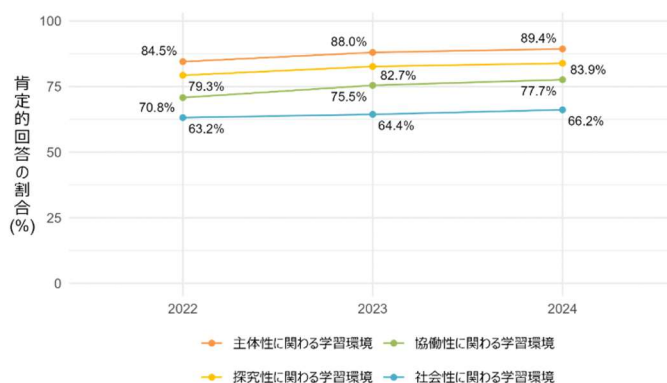
図表 3 は、「①学習活動」「②学習環境」「③自己認識」「④行動実績」での4段階評価のうち、生徒の肯定的回答割合の推移(2022～2024 年)を示したものです。4観点とも全体としてゆるやかな上昇傾向にあります。④の社会性にかかわる行動実績については、3年間でみると下降となっています。全体としては、学習活動や学習環境といったインプット指標だけでなく、生徒の能力認識や行動実績といったアウトプット指標においても上昇傾向にあることは、高校魅力化の成果が確実に現れているといえます。

図表3 3年間の結果の推移

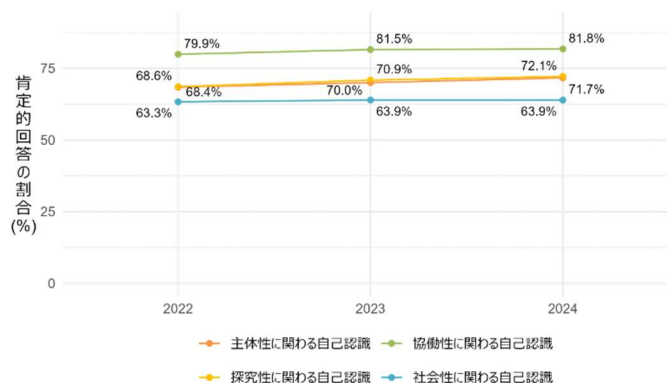
①学習活動



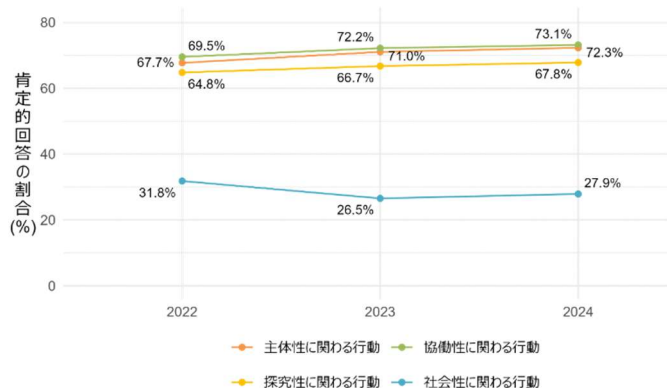
②学習環境(学びの土壌)



③自己認識(資質・能力の主観的認識)



④行動実績(資質・能力の発揮)



注1) 通信制、特別支援学校を除く県立高校 38 校(分校、定時制は別カウント)の生徒を対象とした。分析に使用した生徒数は、2022 年 11,135 人、2023 年 11,445 人、2024 年 11,136 人である。

3. 強み・伸びしろ(2024 年)

図表4は、2024 年における生徒の肯定的回答割合が最も高い項目と最も低い項目を、強み・伸びしろ(課題)として示しています。各県立高校では、この魅力化アンケートを活用し、強みや伸びしろ(課題)を増進、克服するために必要な「次の一手」を検討しています。また、県教委としても各校の取組に伴走しながら支援しています。

図表4 強み・伸びしろ(2024 年)

強み; 肯定的回答割合が最も高い項目			伸びしろ: 肯定的回答割合が最も低い項目	
〈学習活動〉	90.0%	活動、学習内容について生徒同士で話し合う	34.0%	学校外のいろいろな人に話を聞きに行く
〈学習環境〉	94.1%	挑戦する人に対して、応援する雰囲気がある	59.2%	自分の暮らす地域を、外からの視点で考える機会がある
〈自己認識〉	94.2%	自分とは異なる意見や価値を尊重することができる	42.1%	将来の国や地域の担い手として、積極的に政策決定に関わりたい
〈行動実績〉	81.4%	授業で分からないことを、自分から質問したり、分かる人に聞いた	24.6%	地域社会などでボランティア活動に参加した